

辺野古、高江、宮古、石垣—なぜ闘うのか？
壊れかけたこの国の、自由と平和をめぐる「最前線」

標的の島

かじ
風かたか

「標的の村」戦場ぬ止み」
三上智恵監督最新作
藤沢にて上映会

2017年10月7日(土)

会場 藤沢市民会館 小ホール

開場 13:30 開演 14:00 上映時間 (1時間59分)

三上監督×あべともこ 対談

入場料 大人・大学生 1,000円

(事前申し込み 800円) (申込制先着順)

お申込は、下記までご連絡ください。

問合せ あべともこ事務所

〒251-0025 藤沢市鵜沼石上 1-13-13-1 階

TEL0466-52-2680 FAX0466-52-2681

inochi@shonanfujisawa.com

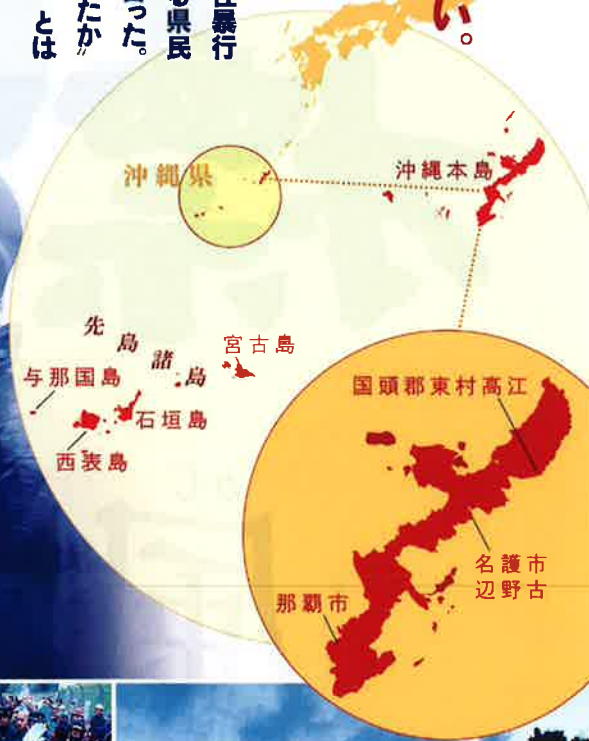
主催 あべとも子と共に歩む会

「標的の島」とは、
 沖縄のことではない。
 それは今
 あなたが暮らす
 日本列島のこと。

2016年夏、米軍属女性暴行殺人事件の被害者を追悼する県民大会で稲嶺進名護市長は言った。

「我々は、また命を救う。風かたかになれなかった。」「風かたか」とは風よけ、防波堤のことだ。

沖縄県民の8割の反対を黙殺した辺野古の新基地建設、全国から1000人の機動隊を投入して高江で強行されるオスプレイのヘリパッド建設。現場では多くの負傷者・逮捕者を出しながら、激しい抵抗が続く。さらに宮古島、石垣島でミサイル基地建設と自衛隊配備が進行していた。なぜ今、先島諸島を軍事要塞化するのか？ それは日本列島と南西諸島を防波堤として中国を軍事的に封じ込めるアメリカの戦略「エアシーバトル構想」の一環であり、日本を守るためではない。基地があれば標的になる、軍隊は市民の命を守らない——それは沖縄戦で歴史が証明したものだ。だからこそ、この抵抗は止まない。映画は、伝えきれない現実を観るものに突きつける。



歌い、踊り、
 咲き誇る文化の力。
 「最前線」に
 集まる人々、
 新たな希望。

大学で民俗学も講じる三上智恵監督が描くのは、激しい抵抗や衝突だけではない。エイサー、パーントゥウ、アンガマ、豊年祭。先祖から子孫へと連なる太い命の幹、権力を笑い飛ばし、豊穣に歓喜する農民の誇りと反骨精神。島々の自然と歴史が育んだ豊かな文化がスクリーンに咲き乱れる。そして、県民大会で古謝美佐子が歌う「童神」、辺野古のゲート前でかき鳴らされる三線の音色。高江のテントで「兵士Aくんの歌」を歌う七尾旅人のまわりには全国から駆けつけた若者たちの姿があった。この一年で安全保障政策を大転換したこの国で、平和と民主主義を守る闘いの「最前線」はどこか？ それに氣ついた人々が、今、沖縄に集まっているのだ。

